

事業計画書

事業名	ときわだいらオープンアトリエ事業
団体名	特定非営利活動法人 ディープデモクラシー・センター
事業概要	
一人ひとりの違いを認めあうことができる時間、誰かと出会い、一緒にアートを楽しめる、小さくても地域にひらかれた場、地域におけるアートとケアの場・オープンアトリエを創造します。	
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	<p>縮小ニッポンといわれるように、人口減少、少子高齢化、労働力不足、貧困の拡大、人々の孤立等の問題は、松戸市においても、年間の孤独死者数は218人（2016）、出生率は1.3（2015）、なんらかの障害をお持ちの方は19,223人（松戸市民25人にひとり/2016/身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者）、児童虐待の相談件数は685件（2016）、高齢者虐待の相談件数は173人（2016）、生活保護の保護率は19.89%となっており、深刻なものといえる。私たちNPOの日々の活動においても、地域で孤立し、様々な生きづらさを抱え、誰にも相談もできず、いのちや暮らしを脅かされている方々が日々、増加していることを実感しています。世代や経済的な状況を問わず、社会的に孤立している人々が増えていることが大きな課題であり、さらにその課題が、困窮、虐待、ホームレスなど、二次的、三次的な課題へとつながっています。そして同時にそのことが、支えあい、助け合いといった共生社会、共生地域の実現を妨げています。</p>
事業の目的	<p>支援の現場でいつも思うことは、どうしてもっと早く相談してくれなかったのか？ということです。程度の差はあれ、社会的に孤立した状態で暮らす多くの人々が、どうしたら、SOSを出してくれるようになるのか？私たちはずっと考えてきました。必要なものは、「自己開示」と「他者理解」。そして「創造」と「想像」、私たちは、まるで違う切り口の間を持つことで、地域で孤立する人々を包摂し、互いに理解できるのではないかと考え、誰かと出会い、一緒にアートを楽しめる、小さくても地域にひらかれた場・・・、地域におけるアートとケアのための場＜オープンアトリエ＞が有効なのだろうという結論にたどり着きました。人間が本来持っている表現への欲望を、自由に、気軽に参加できる表現の場、一人ひとりの違いを認めあうことができる時間。誰かと出会い、一緒にアートを楽しめる、小さくても地域にひらかれた場をつくること、そしてその場を一緒につくっていく人々を育成することで、社会的な孤立に抗っていきたいと思っています</p>

<p>事業内容</p>	<p>1 事業内容</p> <p>○ときわだいらくらしラボ・オープンアトリエ (6回)</p> <p>様々な表現をテーマに、外部講師を招いて、オープンアトリエを開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月 絵の具あそび (講師・こまちだたまお【たまあーと創作工房 千葉県障害者芸術文化支援センターうみのもりセンター長】/予定) ・6月 造形あそび (講師・宮下昌也【画家】/予定) ・7月 木版あそび (講師・山口マオ【イラストレーター】/予定) ・8月 演劇あそび (講師・田中智子【劇団人の森ケチャップ】/予定) ・9月 パステルあそび (講師・かのうみちよ) ・10月 現代詩あそび (講師・調整中) (作品は翌月にギャラリーにて展示) <p>○オープンアトリエ・スタッフ養成講座 (2回・一般参加者も募集)</p> <p>オープンアトリエの場をつくるスタッフの育成を、外部講師を招いて開催</p> <p>講座1・オープンアトリエってなんだろう？</p> <p>(講師・一般財団法人たんぼぼの家/予定【講師は zoom にて講演】)</p> <p>講座2・表現の場を地域につくる！</p> <p>(講師・こまちだたまお【たまあーと創作工房/予定])</p> <p>2 スケジュール</p> <table border="1" data-bbox="464 931 1372 1059"> <tr> <td>4月～</td> <td>広報活動</td> <td>プレス、市内公共施設など</td> </tr> <tr> <td>4月</td> <td>スタッフ養成講座 (2回)</td> <td>ときわだいらくらしラボ</td> </tr> <tr> <td>5～10月</td> <td>オープンアトリエ (6回)</td> <td>ときわだいらくらしラボ</td> </tr> </table> <p>3 広報 市内公共施設、県内関連施設等にチラシの配架を依頼 (郵送) また Web サイト、SNS でも情報やアトリエの様子を発信</p> <p>4 新型コロナウイルスの感染拡大時の対応</p> <p>(zoom などリモートでの代替が難しいもの) コロナウィルスの再拡大の場合、感染防止策を徹底し、参加者数を半分にし、可能な回においては回数を2回にして行います。</p> <p>(zoom などリモートでの代替が可能なもの)</p> <p>リモートでの開催とします。(既存の資機材で対応可能)</p>	4月～	広報活動	プレス、市内公共施設など	4月	スタッフ養成講座 (2回)	ときわだいらくらしラボ	5～10月	オープンアトリエ (6回)	ときわだいらくらしラボ
4月～	広報活動	プレス、市内公共施設など								
4月	スタッフ養成講座 (2回)	ときわだいらくらしラボ								
5～10月	オープンアトリエ (6回)	ときわだいらくらしラボ								
<p>既存の事業からステップアップする部分 (ステップアップ助成のみ)</p>	<p>私たちディープデモクラシー・センターはこれまで、NPO・市民活動団体の支援、生活困窮者、ホームレスの生活再建の支援、自然災害による被災者の支援、障害をお持ちの方の社会参加の支援などを行ってきました。ひとりひとりと向き合い、ともに歩きながら、「よりよく生きること」を追求してきました。この事業では、さらにステップアップし、社会的孤立を生まない地域づくりへと挑戦していきたいと考えています。</p>									
<p>事業の目標</p>	<p>オープンアトリエの参加者=のべ100人 養成講座の参加者=のべ30人</p> <p>参加者アンケートで 今後も参加したい=参加者の75% 今後、関わっていききたい=参加者の70%</p>									
<p>今後の展望</p>	<p>常盤平で、週1回のオープンアトリエの実施を目指し、他地域での展開も目標にします。アートとケアが出会う場を松戸市において実現していきます。</p> <p>「創造」と「想像」を考えると、私たちは他者のいとなみに自分をかさね、「よりよく生きること」ができるのではないか・・・、地域や人々との出会いによって生まれた創造と想像が重なり合うとき、私たちもまた、それぞれが抱える生きづらさを、あらたな眺望を見せてくれるきっかけへと変えることができるはずだと信じて、活動していきます。</p>									

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

	科 目	金 額	積算内訳
団 体	団体拠出金	¥ 66,400	事業費の一部を団体の会計より拠出
	オープンアトリエ参加費 (材料費)	¥ 20,000	@200×100人
	養成講座参加費	¥ 30,000	@1000×30人
	自己資金の合計額 (A)	¥ 116,400	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 300,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 416,400	

【支出】

	科 目	予算額	積算内訳
助 成 金 の 交 付 対 象 経 費	報償費 (オープンアトリエ講師謝金)	¥ 180,000	@30,000×6回
	報償費 (養成講座講師謝金)	¥ 60,000	@30,000×2回
	印刷製本費	¥ 20,000	チラシ印刷外注 @10×1000枚×2種
	委託料	¥ 20,000	チラシデザイン @10,000×2種
	通信運搬費	¥ 8,400	定形外郵便 @140×60 (施設)
	消耗品費	¥ 50,000	絵の具@1,000×15 パステル@1,500×15
			粘土@400×15 木材@100×30
			文具、用紙 3,500
対象経費の合計 (D)		¥ 338,400	
そ の 他 経 費	講師交通費	¥ 18,000	@3,000×6
	交通費	¥ 40,000	当日スタッフの交通費 1,000円×5人×8回
	食料費	¥ 20,000	当日スタッフの昼食代 500円×5人×8回
	その他経費の合計 (E)	¥ 78,000	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 416,400	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。